AIの4つの働き（見分ける・予想する・つくる・動かす）

AIは、どんな働きをしているのだろう

1 見分ける

入れるもの：写真や声 → AI → 出すもの：写っているものや、ことば

例
- 顔を見分けて、かぎを開ける
- 声を聞き分けて、文字にする

2 予想する

入れるもの：これまでのデータ → AI → 出すもの：この先どうなりそうか

例
- 道のこみぐあい
- 店で売れる数

3 つくる

入れるもの：ことばの指示 → AI → 出すもの：文章や絵を新しくつくる

例
- 文章をつくる
- 絵をつくる

4 動かす

入れるもの：センサーで知った様子 → AI → 出すもの：機械の動き方を決める

例
- 物をよけるそうじロボット
- ぶつかる前に止まるブレーキ

1つの機械で、いくつかの働きを組み合わせることも多い（例：ブレーキは、見分けてから動かす）。

どの働きも、たくさんのデータから学んだきまりを使っている。

※ 例は、AIを使うものの一部。同じ種類の機械でも、AIを使わないものもある。